

CASBEE京都-新築(2015年版)
京都大学(桂)図書館(仮称)

■使用評価マニュアル CASBEE京都-新築(2015年版)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 屋光利用								
3.2 グレア対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
4.2 換気								
4.3 運用管理								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1.2 心理性・快適性								
1.3 維持管理								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
2.2 部品・部材の耐用年数								

2.4 信頼性				災害時の換気設備への電力供給等。	4.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法			耐震クラスS。	5.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			通信手段の多様化等。	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり					4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり			階高:3.9m以上。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率:0.1以上0.3未満。	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり				床荷重:3500N/㎡以上。	5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	建造物修景地区(山ろく型建造物修景地区)。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				断熱性能の高い建築材の採用。	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)	トップライトを採用。	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	BEI 非住宅 0.63 住宅(専有部) ー	4.0	0.50	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)				高効率な設備機器の採用等。	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)					-	-	-	-	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	
4.1 モニタリング					-	-	-	-	
4.2 運用管理体制					-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護					3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水				節水器具の採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.7	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		●自然	A(全国版準用)	井水の利用。	4.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.9	0.60	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	プレストレストコンクリートの採用等	4.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	グリーン購入法適合品やエコマーク認定品の採用。	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	持続可能な森林から産出された木材を採用。	5.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	フリーアクセスフロアの採用。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				PRTR法に該当しない建築材料の採用。	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					2.6	0.70	-	-	
1 消火剤					1.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				ODP=0、GWP<50の断熱材を使用。	4.0	0.33	-	-	
3 冷媒					3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮				高効率な設備機器の採用によるCO2の削減。	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮					3.4	0.33	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止				燃焼設備の不採用。	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減					3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制					2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1 騒音					3.0	1.00	-	-	
2 振動					-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制					-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画。	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる